

第14回 EST普及推進フォーラム実施概要

EST(Environmentally Sustainable Transport:環境的に持続可能な交通)の普及促進を図るため、ESTの取組みについて講演やパネルディスカッション等で検討する「第14回 EST普及推進フォーラム ～電動化で目指す地域交通のカーボンニュートラル～」を開催した。また、「第14回 EST交通環境大賞※」の表彰を本フォーラムの中で行った。基調講演にて脱炭素化実現のための公共交通電動化の進め方について学び、受賞講演により優良事例を共有した後に、パネルディスカッションにて「地域交通脱炭素化を進めるために、今何が必要か？」について検討した。

当日は、EST・交通環境対策について関心を持つ方々を中心に79名が参加した。フォーラム、表彰式の模様は2024年5月24日の中日新聞で記事として掲載された。また、一般社団法人陸前高田グリーンスローモビリティ、陸前高田市が受賞した旨は2024年5月29日の東海新報に、伊勢地域公共交通会議が受賞した旨は2024年6月4日の伊勢新聞に記事として掲載された。

※地域の交通環境対策に関する取組み事例を発掘し、優れた取組みの功績や努力を表彰するとともに、その取組みを広く紹介し、普及を図るため、本フォーラムの主催者が2009年度に創設した表彰制度。

日時:2024年5月17日(金) 13:30~17:00

会場:ルポール麹町「ロイヤルクリスタル」(東京都千代田区平河町2-4-3)

主催:EST普及推進委員会、公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団

後援:国土交通省、環境省、警察庁、一般社団法人日本自動車工業会、
公益社団法人日本バス協会、一般社団法人日本民営鉄道協会、
一般社団法人全国ハイヤー・タクシー連合会



←開催風景

広報チラシ→



電動化で目指す地域交通のカーボンニュートラル
「第14回 EST普及推進フォーラム」開催のご案内



【写真】左上:市内の公共交通機関の利便性を向上させるため、主要な駅、商業施設、医療機関などを運行することで、市内の移動利便性の向上を図っている。左下:平日の通勤時間帯は市内の公共交通機関の利便性を向上させるため、主要な駅、商業施設、医療機関などを運行することで、市内の移動利便性の向上を図っている。右上:平日の通勤時間帯は市内の公共交通機関の利便性を向上させるため、主要な駅、商業施設、医療機関などを運行することで、市内の移動利便性の向上を図っている。右下:平日の通勤時間帯は市内の公共交通機関の利便性を向上させるため、主要な駅、商業施設、医療機関などを運行することで、市内の移動利便性の向上を図っている。

EST(Environmentally Sustainable Transport:環境的に持続可能な交通)の普及促進を図るため、ESTの取組みについて講演やパネルディスカッション等で検討する「第14回 EST普及推進フォーラム」を開催します。

また、「第14回 EST交通環境大賞」の表彰を本フォーラムの中で行います。基調講演にて電動化で目指す地域交通のカーボンニュートラルについて学び、受賞講演により優良事例を共有した後に、パネルディスカッションにて「地域交通脱炭素化を進めるために、今何が必要か？」について検討します。

EST・交通環境対策の最新情報を入手し、優良事例を共有した上で、現状の課題を検討する絶好の機会となりますので、皆様の参加をお待ち申し上げます。

※地域の交通環境対策に関する取組み事例を発掘し、優れた取組みの功績や努力を表彰するとともに、その取組みを広く紹介し、普及を図るため、本フォーラムの主催者が2009年度に創設した表彰制度。

日時:2024年5月17日(金) 13:30~17:10 (13:00受付開始)

会場:ルポール麹町 2階「ロイヤルクリスタル」

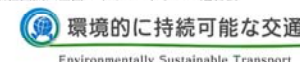
〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-3

主催:EST普及推進委員会、公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団

後援:国土交通省、環境省、警察庁、一般社団法人日本自動車工業会、

公益社団法人日本バス協会、一般社団法人日本民営鉄道協会、

一般社団法人全国ハイヤー・タクシー連合会



開会挨拶・基調講演

公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団、国土交通省からの開会挨拶のあと、基調講演が行われた。

○開会挨拶

岩村 敬	公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団 会長
岩城 宏幸	国土交通省総合政策局 次長
酒井 雅彦	環境省水・大気環境局 モビリティ環境対策課長



○基調講演

「脱炭素化実現のための公共交通電動化の進め方」
早稲田大学スマート社会技術融合研究機構 電動車両研究所
研究院客員准教授 井原雄人



表彰式・受賞団体講演

基調講演に続き、第14回 EST交通環境大賞の表彰式が行われ、国土交通省岩城次長、環境省酒井課長、EST普及推進委員会 加藤委員長から各賞授与の後に、加藤委員長から審査講評が行われた。

休憩を挟んだ後、受賞団体から受賞団体講演が行われた。

○表彰式

【大賞 国土交通大臣賞】伊勢地域公共交通会議

【大賞 環境大臣賞】一般社団法人陸前高田グリーンスローモビリティ、陸前高田市

【優秀賞】第一交通産業株式会社

【奨励賞】山口大学都市・社会システム工学研究室、宇部市公共交通協議会、山口市



○受賞団体講演

「再エネ由来の電力を使った電気バスの運行や
公共交通の利用促進」

鈴木 健一 伊勢地域公共交通会議会長・伊勢市長

「グリスロで実現する脱炭素と地域課題解決」

小出 浩平 一般社団法人

陸前高田グリーンスローモビリティ代表理事



パネルディスカッション 「地域交通脱炭素化を進めるために、今何が必要か？」

コーディネーター：加藤 博和
パネリスト：井原 雄人

名古屋大学大学院 環境学研究科 教授
早稲田大学 スマート社会技術融合研究機構 電動車両研究所
研究院客員准教授
第一交通産業株式会社 交通事業統括本部 次長
国土交通省 総合政策局 環境政策課 環境政策企画官
環境省 水・大気環境局 モビリティ環境対策課 係長

古賀 隆太
大野 浩史
田辺 和泰

【概要】

第14回EST交通環境大賞では、伊勢市、陸前高田市、第一交通産業株式会社、山口県のように公共交通の電動化や利用促進の取り組みが各賞を受賞した。

COP28の首脳級会合では、岸田文雄内閣総理大臣が2030年までの行動が決定的に重要であることを強調の上、2050年ネット・ゼロの達成、全温室効果ガスを対象とする経済全体の総量削減目標の設定及び2025年までの世界全体の排出量ピークアウトの必要性を訴えた。地域交通分野でも脱炭素化が喫緊の課題となっている。

今回のパネルディスカッションでは、受賞団体を代表して、大賞に準じて優れていると評価された優秀賞の第一交通産業株式会社がパネリストとして出演し、「ESTを地域で実現するために何が足りないのか」について議論を深めた。

前半では、基調講演や、大賞2団体による受賞団体講演、優秀賞・奨励賞の取組発表を踏まえて、優秀賞に対する質疑やコメントを行い、取組みに対する知識を深めた後、後半では、地域交通の脱炭素化を進めるために必要な取組みや課題について議論した。

